

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 5月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1173300441
法人名	株式会社いづみ野
事業所名	グループホームいづみ野
所在地	〒55-0002 埼玉県東松山市東平502-1 (電話) 0493-21-6661

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月16日

【情報提供票より】(19年12月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算	7.4人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,500円+実費	
敷金	有 (100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いのクリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、田園地帯に位置し、リビングからは桜並木が一望される。周囲は自然環境抜群で、四季折おりの変化が楽しめる。ホーム内は、木の温もりを取り入れた和風造りが安らぎをもたらしている。利用者とスタッフは、食事作りや掃除、洗濯を共に行いながら、自分らしさを保ち、楽しい日々を過ごすことによって、認知症の進行を緩やかにすることを目指している。きめ細かなケアプランとカーデックスを使って個々の状態を把握し、その人の変化に対応した適切な介護を実践している。職員は、常に利用者の立場にたった介護を考えており、人間同士の関係を築いている。小中学生の体験学習や老人大学の実習、ボランティアの受け入れ、等で地域と連携しており、また、認知症の講座を開き地域貢献にも取り組んでいる。リビングには絵画や手作りの装飾品が飾られ、安らぎのある暮らしが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 特に改善課題はなかったが、管理者と職員は常により良い介護ケアを目指して前進している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議で、各項目について問いかけをしながら、意見交換をし、日々のケアの振り返りをした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域住民や複数の家族が出席し、活発な意見交換がなされている。討議内容は、運営状況や行事計画、事故防止等について話し合われている。避難誘導訓練については、会議での討議内容に基づき近隣の関係者が参加して、訓練を見守り協力体制が整えられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からは、「利用者職員は、生き生きと楽しく生活しており、家族の話をよく聞いてくれます」との肯定的な意見が寄せられている。成年後見制度についての相談に対しては、市役所や家庭裁判所、社会福祉協議会等に家族と出向き、了解の得られるまで対応をしている。運営推進会議での家族からの意見は、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム便りは、町会、小中学校、地域の活動センター等に配布しホームの理解に努めている。認知症についての理解を得るために、きらめき市民大学の実習生やボランティアさんには、サポーター講座を開いている。近隣の人とは機会ある毎に、挨拶やおしゃべりをしながら交流している。野菜や花の作り方を教えてもらったり、季節の花や野菜を届けてくれる方がおり、地域密着のホームとして開かれた運営がなされている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人が人として人を支援するという理念のもとに、地域において、その人らしく暮らせる支援を目指し、きめ細かなサービスの提供に向けて、サービス内容まで作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、リビング、事務所、宿直室等に表示し、理念を具体化させた内容まで明示している。また、管理者は職員会議やカンファレンスで、理念の基本的な考え方について話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や盆踊り等の行事へ参加したり、毎月のハッピー体操へも積極的に参加している。地域の小中学生の訪問やボランティアの受け入れによって、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、3月初めに職員会議で全員で自己評価に取り組み、体制の見直しや整備内容を検討し、今後に向けての具体的な改善に取り組んでいる。外部評価についても項目ごとに振り返りをしながら、評価の意義を理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年に3回開催し、町会長、民生委員、地域代表、家族、市職員等参加のもと、活発な情報交換が行われている。地域の人からは、介護の苦労話等も出され、利用者の状況や抱えている問題について話し合いながらサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは情報交換を密にし、地域密着型サービスについて、会議の場で、また、必要時連携を持ち、相談や話し合いをしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当者は1ヶ月の暮らしぶりやエピソード、健康状態を書いて家族に送っている。家族の面会時は、金銭管理状況や検査データ等について詳細な報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、毎月の支払い時等に、コミュニケーションを図り、意見や苦情等聴くようにしている。また、運営推進会議に複数人参加していただき、意見を出してもらい運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は殆どなく安定している。やむを得ず離職する時には、利用者と共に別れ会をして送り出している。新職員が入る時は、利用者と共に紹介する等、新しい人に馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中で、経験や役割に基づき、研修には順次参加している。また、事業所内では、毎月の会議で日々の体験を通して学びあえるよう実技を取り入れたり、情報交換によって研鑽に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域な同業者とのネットワークを大切にし、市の介護支援専門員連絡協議会等の研修会や懇親会に積極的に参加している。グループホーム間では、立ち上げ時の見学や実習で相互の情報交換をし、ケアプランや介護記録等について、相互訪問をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には、見学や、時には体験入居をして納得の上で入居していただくことを基本にしている。家族と相談しながら、馴染みの家具や使い慣れた物を居室に持ち込んでいただき、共同生活に徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者から日本古来の伝統や、利用者の体験談を聞きながら学ぶことが沢山ある。常に利用者や家族の立場での介護を考えて、楽しく笑い合える時を過ごせるよう、共に大切な存在として生活を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の思いや暮らし方については、お茶の時間や入浴時のふれあいを通して把握するよう努めている。本人が表現することが困難な方については、家族から情報を得て本人の立場になった支援を心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の暮らしのあり方について、お茶の時間や休憩時に本人の考えを聞き、また、面会時に家族の意見や要望を聞いて話し合いをし、職員の気づきやアイデアを活かしながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヵ月毎に、カンファレンスとモニタリングにより介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合には、家族へ連絡をとり、暫定プランを作成し、現状にあったプランを作成している。また、職員にはプランの変更を周知徹底するために、マーカーを使い見やすくしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の訪問看護ステーションと24時間体制で連携をとりながら、重度化に対する要望を明確にし、支援体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について、本人、家族の希望を確認し、希望する病院を受診できるよう支援している。協力医は月2回、訪問診療に来所している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居相談時に、「重度化した場合における対応に係る指針」について説明し、本人、家族の意思を尊重しながら、ホームの方針を了解してもらっている。職員は重度化した際の対応について話し合い、文章化し、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と接する際は、個々の誇りや違いを尊重し、本人の状態やペースに合わせ、分かりやすい言葉を使うように努めている。記録はプライバシーに配慮した表現にしており、個人情報の保護の重要性については職員会議で話し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、散歩時間がその日によって変化したり、自由にくつろげる時間を持ちながら、裁縫や書き物をする等、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、各人の得意な分野を発揮できるよう支援している。一日30品目を目指した献立をつくり、旬の野菜を使って食事の品目を多くし、職員と利用者は食事を一緒に楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴は、個々の病状や皮膚の状態に合わせ、その人に合わせた入浴方法でリラックスできるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、草取り、手芸等その人が張り合いが持てるよう、道具等準備し支援している。手打ちうどんが得意な人は、本領を発揮し、皆に手打ちうどんを振るまい喜ばれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や地域活動センターで行うハッピー体操に参加している。また、地域の運動会の見学に行くなど、希望に合わせて参加することで満足をもたらす支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを付け、工夫して見守っている。利用者が外出する際は、制止することなく行動を観察し、意思を汲み取りながら散歩で気分転換が図れるよう支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の協力を得て、避難誘導訓練を実施している。地域の方にも訓練時の様子を見ていただき、地域住民にも理解と協力が得られるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や調理師の助言を得ながら、一日30品目の食材でバランスを考えた食事を提供している。食事摂取量・水分摂取量を記録し、毎月、体重測定をしながら変化を観察し、必要な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や、手作りのパッチワークが飾られ、吹き抜けのリビングは明るく憩いのスペースとなっている。廊下には、絵や写真を飾り楽しんでいる。木の温もりと職員のきめ細かな気配りで、居心地よい空間作りがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、和室と洋室があり、好みの使い方をしている。使い慣れた家具等持ち込み、今までの生活様式が継続されるよう配慮している。孫のお土産や家族の写真等を飾り、居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。		